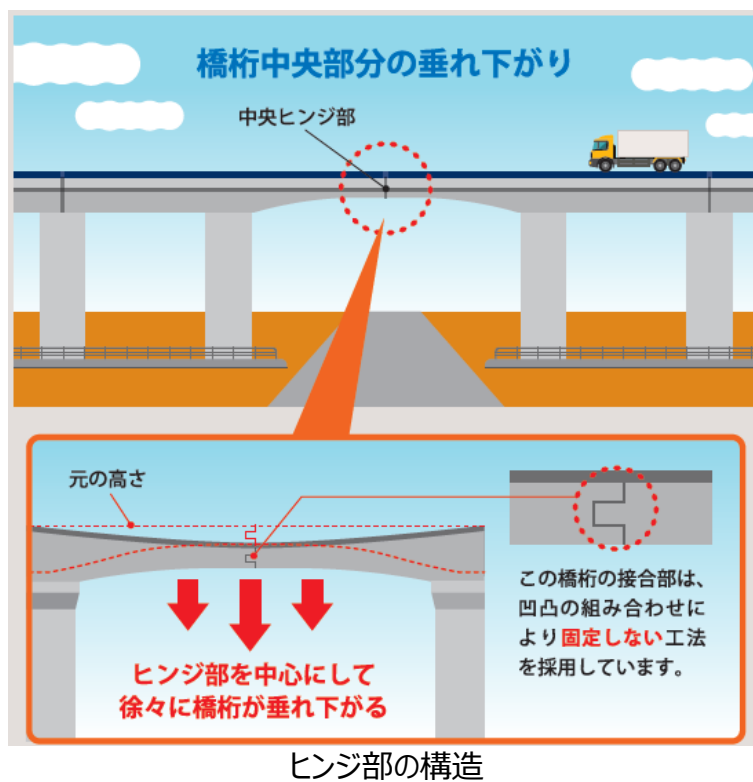


■ 喜連瓜破付近橋梁の状況と架替え工事の実施について

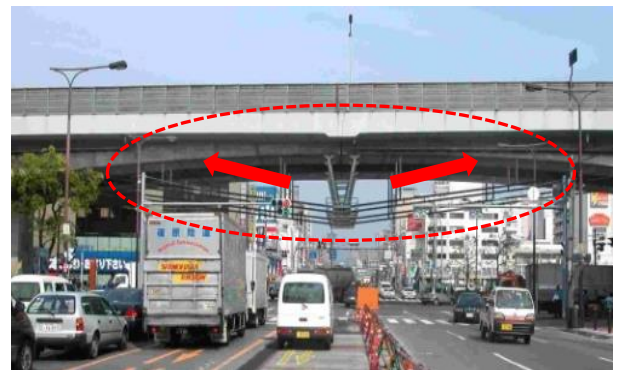
今回更新工事を行う喜連瓜破付近の橋梁は、供用から約 40 年経過したコンクリート橋です。主要な交差点をまたぐために橋長を長くする必要があり、橋桁の中央付近にヒンジ※形式の継ぎ目を設ける構造を採用しました（下図参照）。この構造は、合理性が高い設計として建設当時は一般的でしたが、経年とともに橋桁中央のヒンジ部を中心に設計時の想定を上回る垂れ下がりが進行し、路面が大きく沈下しました（左下写真参照）。垂れ下がり解消のためにケーブルによる補強を行う（右下写真参照）とともに、必要な調査点検を継続的に実施し安全に走行していただける状態で管理していますが、抜本的な解決には至っていません。一方で、阪神高速 6 号大和川線が 2020 年 3 月に全線開通し、14 号松原線に対する広域回ネットワークが整備されました。これらの状況を踏まえ検討した結果、長期の健全性・耐久性を確保するために、中央ヒンジ部を有する現在の構造から鋼製の連続橋への架替え工事を実施します。



ヒンジ部の構造



橋桁中央部の沈下状況



過去に実施した対策
(ケーブルで左右から中央部を引き上げる対策)